

2018年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2019年 9月 24日
氏名： 小谷 博光	実施国：パラグアイ共和国	協力活動
活動名称	パラグアイ共和国カアグアス県における、有機農業技術の普及を通じた収入源創出プロジェクト	
実施期間	2018年12月8日～2019年5月31日（延長申請を行い2019年8月まで延長）	
(1) 申請した動機		
<p>青年海外協力隊員として勤務した農業高校において、現在、地域の副産物を有効利用し効果的な有機農業の見聞は受け継がれていないため、多様な農業に触れる機会が著しく少なくなっています。また、これまで自給持続の生活を送ってきたカアグアス県農村地域の住民は、近年、貨幣経済と資本主義の影響を受け、現金を稼ぐ必要性に迫られています。そこで、有機農業による野菜栽培技術を導入することで、農業高校での教育の幅を広げ、加えて農村住民の新たな収入源を創出するために申請しました。</p>		
(2) 活動内容概要		
<p>活動の目的として、①農業高校に通う学生ならびに農村住民に適正な有機農業の技術が指導され、多様な農業に接することで個々人の選択肢を広めること、また②農業高校と農業普及局の指導者に対して、有機農業を用いた野菜の栽培技術や肥料、自然農薬などの作り方を伝授することで、安定した収入源が確保されることとしています。それを実現するため、以下のことに取り組みました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>【2019年5月渡航前】身近な物を使って作る自然農薬や有機肥料の作り方について、冊子を作りスペイン語に翻訳しました。</li> <li>【2019年5月渡航】上記の冊子を用いて有機農業の研修会を開催し、30名近い学生が参加しました。有機農業について学ぶだけでなく、校舎を出て実際に肥料を作る作業も体験してもらいました。</li> <li>【2019年5月渡航】カアグアス国立大学主催の「環境工学と持続的農業会議Ⅰ」に招かれ、「環境に優しい農業と社会—有機農業技術の事例から—」と題して講演を行いました。学生を中心とした聴講者に対して、長年にわたり日本で発展してきた有機農業と社会の要請について話をしました。</li> <li>【2019年5月渡航後】帰国後は、栽培テキストの修正に取り組みました。</li> <li>【2019年8月渡航】カアグアス県内の農村住民を対象として、有機農業研修会を実施し、周辺の村々から20名近い参加者が集まりました。5月渡航時と同様に、座学で自然農薬や有機肥料などについて理解を深めた後、現地の指導員も加わり、実際に参加者が実践して技術の修得を図りました。</li> <li>【2019年8月渡航】パラグアイ上院のエネルギー・天然資源・入植・環境・持続的開発委員会において、「水質汚濁を避けるための愛知県の環境政策」と題して、日本の水質汚濁防止法から愛知県の取り組みまで、水質汚濁に関する法律や活動を紹介しました。</li> </ol>		
(3) 活動の成果・苦労した点・反省点等		
<p>農業高校での有機農業研修では、高校2年・3年生と高校教員を対象に、座学で自然農薬と有機肥料の作り方を学んだ後、屋外に出て小麦粉を使った有機肥料の作り方を体験してもらいました。前日から現地に入り準備をしていましたが、有機肥料を作る場所やデモンストレーションなどについて、より調整役と打ち合わせが必要であったと感じました。</p> <p>またカアグアス国立大学での講演では、当日しか会場に行くことができなかったため、発表者の位置からスライドが見えづらいことや、より理解を深めてもらうためにゆっくり話す工夫をするべきであったと、いくつか反省する点がありました。一方で、この講演の影響は大きく、農学部と同じ学部構成である生産科学部の学生200名以上に対して、有機農業を軸として持続的な環境保全と社会からの需要について、意見を述べる機会が得られたことは非常に大きな成果であったと感じています。</p> <p>加えて、食をテーマにしたNPO法人の設立を進めてきましたが、5月7日に名古屋市の認可が下り、その後は法務局などへの届出を行いました。個別の活動だけでなく、組織立った活動を展開する準備が着々と進んでいます。</p> <p>2019年8月に渡航した際には、上院のエネルギー・天然資源・入植・環境・持続的開発委員会にて、水質汚濁問題に対する日本の対策について、説明する機会を得ました。有機農業を軸に所得の向上を図るためには、長期的に見ると自然環境全般に注意を払う必要があります。河川や湖沼、地下水などの水資源の汚染や人間に対する悪影響を避けるため、関連する政策や活動などの概要説明を行いました。</p>		
(4) 今後のプラン		
<p>ラテンアメリカ農村地域の食を機軸とした活動を行うNPO法人が設立されました。今後は、この団体を通じて、安全な食料の生産から加工、販売などを展開し、農村住民の健康増進や所得向上を図って参りたいと思います。またパラグアイ渡航時には水質汚濁問題にも関わりましたので、パラグアイの河川や湖沼、地下水などの水質改善にも取り組んでいければと考えております。</p>		